

講義名	ドイツ語 / ドイツ語入門			授業形態	
担当教員	海老原 由美子	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 4 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	

## 主題と概要

ドイツ語を学ぶことはドイツを知ることです。ドイツってどんな国？ドイツ人ってどんなことを考えてる？ドイツ語を学びながら、それを感じ取ったり、推測したりしてみましょう。

クラスメートには「Hallo」目上の人には「Guten Tag!」と挨拶することからスタート。相手に話しかける時、親しい相手か、距離を置かなければならない相手か、この区別があることを意識し続ける必要があります。

ドイツに留学し、Oliver の家にホームステイすることになった Seiko に自分を重ね合わせて、自己紹介したり、家族や友人を紹介したり、欲しい物や必要な物を言ってみましょう。

町へ出て、様々な商店、銀行、郵便局へ行くにはどう表現したらいい？実際に使える身近な表現を学んだ後に、文章の規則性に気づく。このプロセスを大事にして文法を学びます。

まずは表現を学び聞き、声に出して体験学習し、文法へ。コロナ状況下ではありますが、距離を保ちながら、ペアワークで授業を進めます。

## 到達目標

自己紹介や他者の紹介では、様々な動詞をトレーニングすることで、名前、出身、住まいの場所、職業、年齢、趣味、好きな飲み物と言えるようになります。

その際、数字やアルファベットの発音をトレーニングします。

中間テストを経て、身の回りの事物、商店や施設の名詞をトレーニングすることで、ドイツ語の大きな特徴の一つである名詞の性と冠詞の仕組みが解るようになります。

次に助動詞を学びます。「したい」「しなければならない」「できる」など、表現の幅が広がります。英語にも助動詞があるので、学びやすいとは思いますが、英語とは全く語順が異なりますし、助動詞そのものが変化します。

動詞および、助動詞も変化する、このシステムを理解し慣れて欲しいと思います。

実生活における慣用表現とともに助動詞をマスターできます。繰り返し音声を聞き、ペアワークで会話し、発表し、より多く発音する機会を持つことで、しっかりした発音が身に付きます。

## 提出課題

毎回の授業の復習として、教科書付属のワークシートはもちろん、教科書の内容を補うワークシートの提出が課題となります。週に一度の授業ですので、この課題提出は評価の重要なポイントとなります。

## 課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

提出物はメールに添付して提出していただきます。添削して返却し受け取りの返信をします。一週間後に、提出を締め切ります。

自分はどこが分かっていないのか、自己チェックをお願いします。このチェックは必須です。チェックを行うことで、先に進んでいくのです。

## 評価の基準

平常点（提出物 - 30%） 30%  
筆記試験（中間小テスト - 20%、期末小テスト - 20%） 40%  
発音チェック（中間 - 15%、期末 - 15%） 30%

中間&期末、いずれも、発音チェックと筆記テストを行います。

コロナ関連で欠席の連絡がある場合には、授業で使用したパワーポイントに音声をつけて配信します。パワーポイントには、次週までの課題についてのお知らせも掲載しますので、これらの資料を使って、課題を提出し、発音チェックを行ってください。

日語から発音していないと、会話はできません。なお、テストとは、学んだ表現・語彙の成果を問うものであることを認識してください。単語が分からない場合は、単語リストをみてください。教科書の中で探してください。安易にインターネットで搜した表現は、採用しません。教科書の表現こそ、常にアップデートされた表現であることを理解してください。

## 履修にあたっての注意・助言他

教科書（ワークブック付き）は必ず、早めに購入してください。大学で売り切れの場合には、出版社である三修社での購入が勧めです。

<https://www.sanshusha.co.jp/text/isbn/9784384123036/>

アマゾンでの購入はお勧めできません。なぜなら、この教科書は20年以上もの間、時代に即した表現を取り入れるために、繰り返し改訂を重ねて来たため、オンライン上に複数の同名の教科書が存在しているからです。過去にも誤って過去の教科書を購入してしまった学生の方が複数いました。なお、出版社とアマゾンでの購入額は同等です。

## 教科書

.自己表現のためのドイツ語1 <プラス>.	板山真由美 垣路ウルズラ 本河裕子 吉満たか	三修社	\2600	9784384123036
-----------------------	------------------------	-----	-------	---------------

## 参考図書


## その他

<推薦辞書・サイト>  
アボロン強和辞典 同学社 / 辞書サイト glosbe

その他、ネット上には、様々な辞書サイトがあります。積極的に、スマートフォンやタブレットを用いて、意味を調べてください。ただし、表現に関しては、教科書の表現が最もドイツ人が普通に使う表現であり、それを学ぶことが何よりも優先されます。なお、各課の単語リストを配信します。

## 授業計画

- L1-ドイツへ 挨拶 & 自己紹介
- L1-ドイツへ 機内での会話・好きな飲み物・苦みな飲み物
- L1-ドイツへ 私の職業は学生です。あなたは？(Sieの関係・距離を置いた関係)、アルファベット。
- L2-ホストファミリーで オリヴァーが空港で聖子を出迎える。「きょうの調子はどう？」
- L2-ホストファミリーで オリバーと互いの家族を紹介しあう (duの関係・親しい関係)
- L2-ホストファミリーで 数字の発音をマスター。また趣味について学び、表現を広げる。
7. 復習 (L1&2) と発音テスト&筆記テストの準備
8. 中間テスト 筆記テストと発音テスト ( L1&2 )
9. L3-新しい環境 ホストファミリーの聖子の部屋にあるもの&ないもの、名詞の性を学ぶ。
10. L3-新しい環境 聖子がオリヴァーに尋ねる。「郵便局は近くにある?」「郵便局に行くの。」様々な店・施設とそこへいくための表現を学ぶ。
11. L4-勉強と余暇 助動詞を学び、「しなければならないこと」と「したいこと」を表現する。
12. L4-勉強と余暇 助動詞を学び、「してはいけないこと」と「してもいいこと」を表現する。
13. L5-聖子の一週間 曜日を学び、一週間の予定を言えるようになる。
14. 復習 (L3,4&5) と、発音テストの準備
15. 期末テスト 発音テスト 筆記テストは試験期間中に行います。

## 授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
○ キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

jペアワークで授業を行います。

## 準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

復習を重視します。教科書付属のワークシートを必ず課題とします。それが次回の授業への理解に繋がります。

音声をダウンロードして繰り返し聞く。これだけでもかなりドイツ語は上達します。コロナ関連で欠席の場合には、配信されたパワーポイントで発音練習して復習し、次の授業へとつなげましょう。 Quizlet というプラットフォームのIRLを配信します。ゲーム感覚で単語を学んでみましょう。また新出単語を書き出すなど、いろいろな方法を取り入れてみましょう。発音と語彙力が重要です。

毎回4時間程度の復習をよろしくお願いします。

## 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

ドイツは経済的にも政治的にもEU・ヨーロッパの最も重要な国の一つです。

ドイツ語を学ぶことは、ヨーロッパの理解を深め、国際的な視点を持つことに繋がります。また語学の基礎固めは、自己の学びの方法論の確立にもなるでしょう。入門段階での自己紹介、他者紹介、身の回りの事物の表現、自分の気持ちの表現ができるようになれば、単位認定です。

他者との会話を通じてコミュニケーション能力を培う良い機会です。

## 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

感染対策を取りながら対面授業を行います。

コンピュータ教室ではありますが、ペアワーク、グループワークを多用し、教師が巡回して発音チェックをします。

Quizlet はスマートフォンさえあれば楽しく学べます。自習に是非使ってみましょう。

基本的にはテストは Teams を使って行います。授業開始後に、Teams のクラス編成を行いますので、メールをよくチェックし、クラス申請を行ってください。

クラウドで共有するPPTで常日語から、発音のトレーニングを繰り返し行い、発音テストに備えてください。

## 実務経験の有無及び活用

## 備考

授業には継続して出席することを心がけてください。毎回出席し、発音し、表現し、文法を学ぶ。日々の積み重ねによってしか、語学の上達はありません。

受講生の理解度に応じて、授業の進度を調整したり、授業や課題の内容を変更する場合があります。

全体として、発音を重視しますので、授業中の発音練習・会話練習に積極的に参加してください。